



高円宮杯 2014ホッケー日本リーグ【 男子 】 第 2 節 第 4 日

開催日時 10 月 12 日 (日) 会場 立命館大学柘野ホッケー場 天候 晴れ

【全試合結果】

第1試合 ----- 10:00~	岐阜朝日クラブ	3	$\begin{pmatrix} 0 - 1 \\ 3 - 2 \end{pmatrix}$	3	診療印刷
第2試合 ----- 11:40~	山梨学院OCTOBER EAGLES	3	$\begin{pmatrix} 2 - 1 \\ 1 - 0 \end{pmatrix}$	1	法政大学
第3試合 ----- 13:20~	名古屋フラーテルホッケーチーム	2	$\begin{pmatrix} 0 - 0 \\ 2 - 1 \end{pmatrix}$	1	立命館大学ホリーズ

【各試合の結果・詳細】

第1試合

岐阜朝日クラブ 3 $\begin{pmatrix} 0 - 1 \\ 3 - 2 \end{pmatrix}$ 3 診療印刷

勝点 4
1 勝 1 分 2 敗

勝点 5
1 勝 2 分 1 敗

<得点>

岐阜朝日 : 38分森、45分川畑、70分森

診療 : 17分横田、44分太田、67分太田

<戦評>

診療印刷のセンターパスで試合が開始される。両チーム共に立ち上がりから激しい攻防を見せる。試合が動いたのは17分、診療は#9横田のヒットシュートで先制点する。対する岐阜朝日クラブも徐々に攻勢に出るが、得点できないまま前半を折り返す。後半に入り38分、岐阜朝日は#17森がボールを押し込み同点とする。44分、PCを得た診療は#20大田のフリックシュートが決まり勝ち越しに成功。しかし、直後の45分、岐阜朝日は#20川畑がリバウンドを押し込みすかさず同点に追いつく。両者譲らない展開が続いた終盤の67分、診療は#20大田がPCのフリックシュートで貴重な追加点を決める。そのまま試合が終わるかと思われた70分、岐阜朝日は#17森がサークル左隅からリバースヒットを決め土壇場で三度同点に追いつくゴールを決める。そのまま試合は終了し、3-3の同点で両チーム勝ち点1を分け合った。

テクニカルオフィサー	久木 寿一	アンパイア	松原 久
ジャッジ	東 尚人・杉山 由樹		元宗 宏寿

第2試合

山梨学院OCTOBER EAGLES 3 $\begin{pmatrix} 2 - 1 \\ 1 - 0 \end{pmatrix}$ 1 法政大学

勝点 6
2 勝 0 分 2 敗

勝点 1
0 勝 1 分 3 敗

<得点>

山梨 : 4分朝倉、21分松本、49分松本

法政 : 17分後藤

<戦評>

山梨学院OCTOBER EAGLESのセンターパスにより前半戦が開始される。山梨学院は立ち上がり早々から激しい攻撃を仕掛ける。4分、山梨学院は#11朝倉がPCのリバウンドをリバースで押し込み先制点を挙げる。その後も山梨学院が優勢に試合を進めるが追加点を奪うことが出来ない。対する法政大学は17分、#13村山が右サイドから打ち込み、サークルトップで受けた#11後藤がヒットシュートを決め同点に追いつく。しかし山梨学院はすかさず21分、PCから#10松本が鋭いフリックシュートを決め、勝ち越しに成功する。そのまま前半を折り返す。後半に入っても山梨ペースで試合が進むが、決定機を得られず追加点には至らない。49分、ロングパスのこぼれ球から抜け出た山梨学院#10松本がサークル内でディフェンスを振り切ってリバースヒットを決める。法政もPCのチャンスを得るが、得点できずそのまま試合は終了し3-1で山梨学院が勝利した。

テクニカルオフィサー	西松 孝治	アンパイア	藤原 信幸
ジャッジ	河村 圭・八木 太郎		西山 宏明

第3試合

名古屋フラーテルホッケーチーム 2 $\begin{pmatrix} 0 & - & 0 \\ 2 & - & 1 \end{pmatrix}$ 1 立命館大学ホリーズ

勝点 12
4 勝 0 分 0 敗

勝点 4
1 勝 1 分 2 敗

<得点>

名古屋 : 40分畠山、60分河内
立命館 : 68分田中

<戦評>

名古屋フラーテルホッケーチームのセンターパスにより試合が開始される。注目のゲームは激しい攻防が序盤から繰り広げられる。10分、立命館大学ホリーズはPCを得るがフリックシュートはキーパーにセーブされる。対する名古屋も23分、立命館サークル内でシュートチャンスを得るが惜しくも枠から外れて得点には至らない。その後もお互いに譲らないままスコアレスで前半を終え、試合は後半へ。

後半もスピードのある展開で試合が進む。試合が動いたのは40分、名古屋は#16畠山がPCでフリックを決め先制点を挙げる。追いつきたい立命も43分、左サイドのドリブルからPCを取得するが、これを決める事ができない。60分、名古屋#1中川が左サイドからプッシュでセンタリング、それを#6河内がタッチシュートし追加点を挙げる。終盤の68分、立命は速攻から#30田中のサークルトップからのリバースシュートを決め1点を返すが反撃もそこまで。名古屋が2-1で立命を下し、開幕から無傷の4連勝とした。

テクニカルオフィサー	久木 寿一	アンパイア	高橋 英行
ジャッジ	大門 美生・山下 理菜		細川 祐司